



名鉄のホームから見た蒲郡駅南口。  
ヨットの向こうには三河湾が見える。

蒲郡

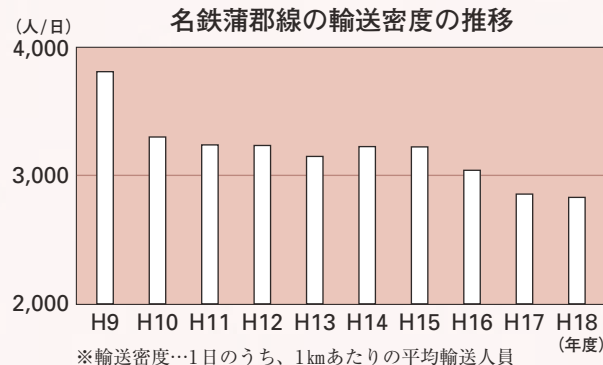
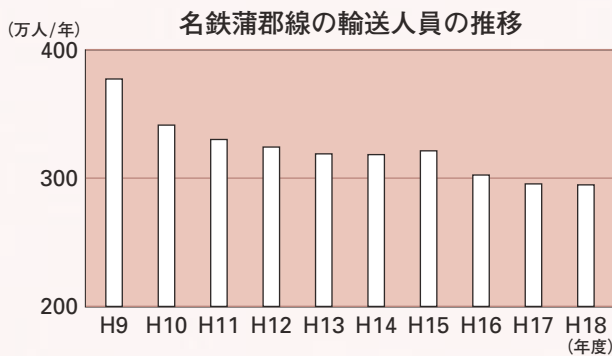
**「三河湾を走る「赤い電車」」**  
皆さんは、「赤い電車」として親しまれている名鉄蒲郡線の電車に、一度は乗られたことがあると思います。今は通勤や通学などで利用される方が多いですが、かつては三河湾に沿って走る観光路線として、全国から脚光を浴びました。  
この名鉄蒲郡線は、吉良町の吉良吉田駅から蒲郡駅までの約18kmを結ぶ路線を指し、沿線には形原温泉、西浦温泉、吉良温泉などの有数の温泉郷のほか、愛知こどもの国や潮干狩りにぎわう海岸があり、多くの観光客がこの路線を利用しました。

# 赤い電車のある街

昭和11年の開通以来、「地域の足」として、市内の公共交通を支え続けてきた名鉄蒲郡線。  
今、この名鉄蒲郡線の運営が、大変厳しい状況になっています。今号では、名鉄蒲郡線の現状についてお知らせします。

昭和11年の開通以来、「地域の足」として、市内の公共交通を支え続けてきた名鉄蒲郡線。

企画広報課 ☎66♦1162



## 厳しい路線の現実

ところが、近年、自動車の普及やそれに伴う幹線道路の整備、レジャーの多様化により、観光路線としての役割が低下してしまいました。名鉄蒲郡線もその影響を受け、平成9年当時と比較して約20%も利用者が減少しています。名古屋鉄道株式会社はその対策として、ワンマン運転の導入や無人駅などでの合理化を進めてきたものの、蒲郡線の運営は大変厳しいものになっています。

旧国鉄が路線の存廃を検討する指針として、輸送密度という指標を使用していました。旧国鉄は、この輸送密度が4千人以下に達するとバスへの転換を検討しましたが、現在の名鉄蒲郡線は3千人に満たない状況です。この数字からも名鉄蒲郡線の厳しい現状がわかります。